

## Get Back

JOJO

1966年6月30日(木曜日) 晴れ 梅雨の合間の蒸し暑い午後、北の丸公園の入り口から行列が出来ていた。僕たちは警備の警察官の目を避けるよう並んでいた。

高校一年の1学期末までにはまだ少し間のある平日の午後、学校から急いで帰って制服を脱ぎ捨て、その頃流行りのブルーのストライプの半袖シャツに生成りのコットンパンツでお洒落して開通して間もない東西線に飛び乗り竹橋で降りてTHE BEATLESの日本公演が行われる武道館に飛んで行った。(警備の都合で九段下ではなかった)

その頃は「ビートルズなど不良の温床だ!」とか「騒音をまき散らす輩に神聖な武道館を使わせるのはけしからん」とか「そんなものを見に行くものは停学、退学だ!」ともいわれた。警備の目にびくびくしながら開演を待っていた。ただ警備のおまわりさんは咎めることもなく優しく誘導してくれた。

僕たちにはどうでもよかった前座のドリフターズの演奏が終わって、司会者の紹介の後すぐに ジャジャジャーン♪ Just let me hear some of that Rock and Roll music ♪ 歌が始まった。

あれから56年経った2022年 THE BEATLES 結成60周年記念の「Get Back」というドキュメンタリー番組がディズニー公式動画配信サービスのDisney+から配信されました。3部構成で7時間48分とかなりの長編なので観るのに3日かかりました。50年以上前の映像と音響ですが、とても品質が良く、現在でも十分に満足できます。監督と映像スタッフの編集技術が素晴らしく、解散を発表する直前の4人それぞれの思いが感じられて、長年のファンの私が見たかったBeatlesが映っていました。Beatlesはツアーバンドの形態をとっていたのですが、この文章の冒頭にある高1の私が観に行った日本公演の後、ライブでの演奏が嫌になったらしく、スタジオで録音したものをレコードとして出していくというスタイルになっていきました。(諸説ありますが、日本公演の後のフィリピン公演でマルコス大統領夫人の晩餐会の招待をキャンセルして散々な目にあっただけ)

解散の約1年前である1969年1月、もう一度昔のようなライブをやろうぜ!というポールの声掛けで



THE BEATLES日本公演初日のチケット

4人が集まり、録音スタジオの屋上でライブを行うまでの22日間の様子がこのドキュメンタリーでは描かれています。22日間で新しい曲を作って披露するってかなりのハードスケジュールなのですが、ジョンとポールがそこに向けて一生懸命に昔のようなBeatlesを構築していこうとする姿がファンとしては胸を打ちます。前に上映されたドキュメンタリー映画「Let It Be」ではジョンとポールの二人の仲が悪いところや、オノ・ヨーコ



<https://www.disneyplus.com/ja-jp>

の存在がかなり悪く描かれていましたが、今回の番組では、そんなことは全くなく、メンバーの仲が良くふざけあっているところが映し出されていて、これが本当の彼らの姿なのだと嬉しくなりました。第一部ではジョージがへそを曲げて帰ってしまう場面もありますが・・・その後、ジョンとポールが自分たちが悪いのだから何とか謝って元に戻るように喫茶店で画策している場面があります。これも隠しマイクで二人の本音の話が聴けて感動しました。今回のDisney+で配信されている「Get Back」はBeatlesファンでなくても楽しめると思うています。

「Love Me Do」で1962年デビューして1970年解散するまで、わずか8年間の活躍でしたが、60年を過ぎた今でも楽曲だけでなく、文化にまで大きな影響を与えてくれました。不良の温床とまで言われた音楽がクラシック音楽家にも愛され、教科書にも載っています。僕も不良にならずに永遠のファンです。

#### THE BEATLES 日本公演

##### <セットリスト>

Rock And Roll Music

She's A Woman

If I Needed Someone

Day Tripper

Baby's In Black

I Feel Fine

Yesterday

I Wanna Be Your Man

Nowhere Man

Paperback Writer

I'm Down